文学部・人文社会系研究科

Ⅰ　研究水準 ..... 研究 4-2

Ⅱ　質の向上度 ..... 研究 4-3

Ⅰ　研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、21 世紀 COE プログラム、グローバル COE プログラム、特定領域研究等を通じて、研究の継承的発展と萌芽的・先端的研究の活性化が推進され、教員は著書や論文等多様な形態で一名当たり年間３～４件程度の研究成果を発表している。さらに、英語に限らず多様な言語での発表が行われ、研究成果の海外発信に貢献している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の平成 16 年度以降、年度当たりの採択件数は 85～91 件で推移し、総採択件数は 348 件（総額 11 億 7,128 万円）であり、さらに、科学研究費補助金以外の獲得資金は年度経過ごとに増加している。平成 19 年度には外部資金の総額が 6 億円を超え、教員一名当たり 400 万円を獲得しており、活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、文学部・人文社会系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、文学部・人文社会系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2.　研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人文知の体系化と継承的発展を目指す研究活動の成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、哲学、言語学、社会学、心理学の分野において評価の高い成果を上げている。社会、経済、文化面では、哲学、文学、史学、人文地理学、社会学の分野で卓越した研究業績が多いことが特徴である。また、過去４年間の研究成果によって、日本学士院賞、フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞、芸術奨励文部科学大臣賞をはじめとして国内外の権威ある受賞の件数が 28 件に及んでいることは、優れた成果である。

以上の点について、文学部・人文社会系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、文学部・人文社会系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は１件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。